

◆事業方針（計画等における位置付け）

・「多摩市教育振興プラン（平成27年3月改訂版）」の中で『「確かな学力」を育成するための地域への支援』の一つとして、「教育連携コーディネーター」（以下、「コーディネーター」という。）の全小中学校配置を目標としている。

◆地域学校協働活動（学校支援活動を含む）の実施体制（特徴・工夫等を含む）

・地域の特性を活かして各校で授業支援（体験学習・地域課題学習（ESD）、学習支援（補習学習・地域未来塾）、環境教育（養蜂・ヤギ飼育・学校農園・ビオトープ・花壇整備）、防災教育などの取組を実施

・各校のコーディネーターで対応しきれない案件は、統括コーディネーターがサポートする。

◆運営委員会

・学びあい育ちあい推進審議会委員（社会教育委員）とコーディネーター、所属の部・課長で構成する「地域連携支援事業推進委員会」を年に1回開催し、各学校支援地域本部（協働本部）の活動状況の報告や意見交換を行っている。

◆広報活動（パンフレット、HP活用、広報誌、報告書など）

・市内公立小中学校等で配布している「教育委員会だより」（2か月に1回発行）に、毎号1～2校の取組を『教育連携支援事業通信』として写真と共に紹介している。



教育連携支援事業通信

西落合小学校の家庭科の授業で、地域の方に指導をしていただいている様子です。今年で3年目になりましたが、5・6年生のミシンの授業の際、4～5名の地域の方がミシンの使い方から縫い方まで、指導してくださっています。完成したものは、学校の作品展などに展示されます。



教育連携支援事業通信

多摩永山中学校・ビオトープ再生プロジェクト

地域住民とコーディネーター、生徒、教職員が集まって、放課後にビオトープの再生活動を行っています。ビオトープにはヤゴやメダカも暮らしていますが、かつて暮らしていたもっと多くの生き物も帰っ



てきてくれることを願って、泥んこになりながら環境整備をしています。

◆コーディネーターの育成・交流の機会提供や学校に対する事業理解促進

・コーディネーター研修会を1回実施。学校ごとに異なる事業を展開していても、全校で共通して必要と思われる事項について講師を招いて実施（29年度は熱中症対策を中心とした救急救命対策）

・コーディネーターと教育委員会担当部署との情報交換会を年度後半に実施予定

◆成果

・コーディネーターを配置した19校では、学校長の求めに応じて上述の通り様々な取組を、地域人材の力により実現。充実した教育活動が行われている。

◆課題・展望

・コーディネーターの全校配置を目指しているが、現在7校が未配置

・平成30年度から「地域未来塾」（授業時間以外での地域の力を活用した補習の取組）を全校で実施するに当たって、コーディネーターの配置を要件としている。

・本年度は小中学校合わせて6校で「地域未来塾」を試行。その取組等を元に教育指導課と共に各校へのヒアリングを行い、学校を支援している。

・コーディネーターの全校配置後には、地域の力を活用した更なる事業展開ができるよう、各学校に働き掛けていく。

・コーディネーター同士で相談や事業連携ができるよう、中学校区でのコーディネーター推薦も目指していく。